外国語教育メディア学会（ＬＥＴ）関西支部中学高校授業研究部会・
京都教育大学英語の教え方研究会　主催

２０１４年度　１月例会のご案内

日　時：　２０１５年　１月　１１日（日）１３：３０～１７：００

会　場：　京都教育大学　ＣＡＬＬ教室（１号館Ｂ棟４階）
（アクセスはhttp://www.kyokyo-u.ac.jp/から）

参加費：　ＬＥＴ会員　無料
京都外国語大学英語教育研究会会員　３００円
学生　２００円　一般　５００円

問い合わせ先：　西本有逸（京都教育大学）　yuitsu@kyokyo-u.ac.jp
鈴木寿一（京都外国語大学）　j_suzuki@kufs.ac.jp

内容：

１３：１０～　受付
１３：３０　開会

小中接続で語らなければならないこと―概念形成と自己意識から人格発達へ
京都教育大学　西本有逸

小中連携や小中接続といった言葉をよく耳にするが，現実の児童・生徒はスムーズでゆるやかな発達曲線を描くことはまずない。むしろ，断絶や飛躍といったダイナミックな面がもっと強調されて良い。小学校高学年から中学校にかけての英語教育はテクニカルな指導法を論じるあまり，発達心理学的な核心を看過してきたのではないか。核心とはこの時期には思考力が高まり，概念的思考が進むにつれて即自から対自へという自己意識が急激に発達するという事実である（小学校英語で頻出するピアジェ理論にはこの自己意識が脱落している）。そしてこの自己意識こそが人格形成の基盤となるのだ。英語教育あるいは言語教育はどのようにアプローチして接点を見出すのか，考えてみたい。

途中休憩

小学校段階における無理のない読み書き表現について
京都教育大学附属京都小中学校　武内弥生

小中一貫校の本校では，９学年にわたる英語科カリキュラムを作成し，基本的に月ごとにまとめた内容をスパイラルに学習できるようにしている。具体的には，初等部１～

４年生では歌や身体運動を通して身体感覚とともに英語に浸る体験を積み，５・６年生段階で中学１年生での対話文や基本的な語彙をオーラル導入し，７年生でのスムーズな読み書きにつなげている。

学習指導要領の外国語活動の項目には，文字の扱いについて「音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いること」と記載されているが，英語学習を進めるに従って文字に興味が出てくるのは自然なことである。本校では１年生から簡単なフォニックス指導を徐々に進め，５・６年生の段階では文字を書くことも取り入れている。しかしながら，アルファベットやより多くの単語が正しい筆順で正確に完璧に書えるようになるための書き取り練習・テストを繰り返し行うのでは英語嫌いを増やすことになる。低学年で培ってきた身体性を残しつつ，どのように文字の読み書き指導につなげていけばスムーズな中１への移行ができるのかについて，平成２６年度京都教育大学附属京都小中学校の研究協議会で行った６年生の「A Magic Box1」の授業での実践例を紹介するとともに，参加者の皆様からの意見やアイデアをお伺いし，よりよい授業のヒントを得る機会としたい。

１７：００　　閉会

会場までのアクセス：

１）京阪電車利用の場合

・淀屋橋、天満橋、京橋からは、特急あるいは快速急行で丹波橋下車、普通あるいは準急電車に乗り換え、墨染駅下車（所要時間約４０分）。徒歩約８分。

・四条からは、普通あるいは準急電車で墨染駅下車（所要時間約１５分）。徒歩約８分。

２）ＪＲ京都駅よりＪＲ奈良線利用の場合

ＪＲ京都駅でＪＲ奈良線に乗り換え、普通電車でＪＲ藤森駅下車（乗車時間約８分）。徒歩約３分。

３）奈良方面より近鉄電車利用の場合

西大寺にて快速または快速急行に乗り換え、丹波橋下車。京阪本線普通あるいは準急電車に乗り換え、墨染駅下車（乗車時間約４０分）。徒歩約８分。

お願い：　最近、メイルアドレスを変更される方が増えておりますため、案内をお送りしても 100 名分以上が戻って来ます。今後、メイルアドレスを変更される場合は j_suzuki@kufs.ac.jp までお知らせください。

今後の予定：

３月２１日（土）・２２日（日）

第２１回中学高校教員のための英語教育セミナー　於）キャンパスプラザ京都

「小学校英語をうけて中高の英語教育はどのように変わらなければならないか？」

講師はあの阿野幸一先生です！